

新旧「羽衣の松」のある三保の松原(静岡市清水区)

目次

会長挨拶.....	P2	みどりのおたより	
知事挨拶.....	P3	第8回しずおか環境・森林フェアの開催(環境政策課).....	P10
技士会会長挨拶.....	P4	生物多様性への取組について(自然保護課).....	P11
委員会だより(技術委員会)		県営吉田公園のチューリップに関する	
壁面緑化モデル施設の植生状況.....	P5	取り組み(公園緑地課).....	P11
委員長挨拶.....	P6	静岡市内の商店街で「花・緑タウンフェアin静岡2011」を	
委員会だより(総務企画委員会)		開催します(みかん園芸課).....	P12
公益社団法人に向けて.....	P7	松くい虫対策樹幹注入研修会(森林整備課).....	P12
委員長挨拶.....	P7	静岡県における広葉樹の遺伝的地域差	
委員会だより(労務労働委員会)		(森林・林業研究センター).....	P13
労働災害の防止.....	P7	静岡県知事顕彰.....	P15
委員長挨拶.....	P8	建設業労働災害防止協会本部長表彰.....	P15
支部だより(東部支部)		建設業労働災害防止協会静岡県支部長表彰.....	P15
都市緑化の普及啓発		協会誌誌.....	P15
緑の相談所 各地に設置.....	P8	おしらせ.....	P15
支部だより(中部支部)		静岡県景観賞	
インターシブレポート.....	P9	七地区に決定.....	P16
支部だより(西部支部)			
コミュニティ緑化自治会に緑化技術支援.....	P10		

新年ご挨拶



(社)静岡県造園緑化協会会長

片桐 利男

新年明けましておめでと〜ございます。

会員の皆様方にはそれぞれつつがなく新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、協会運営に当たり格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、国の内外を問わず激震な年でありました。その中であつて、日本経済は上向きに推移しているとの観測が申されて参りましたが、私ども造園建設業界を取り巻く環境は依然として低迷しており、大変に厳しい一年でありました。

昨年の十月にCOP10が名古屋で開催されました、地球を取り巻く環境問題が広範囲にわたって議論されました。草があり、花が咲き、木が茂り、きれいな水が流れる川があり、あらゆる生物が、絶えることのない美しい自然環境の保全は後世に伝え残していかなくてはならない私どもの義務であるかと思えます。また、環境保全で二酸化

炭素防止という社会問題に対処する緑化工事は大きな役割を担っております。人々の日常生活に潤いと安らぎを与える緑化の推進は、我々緑化専門工事業界の使命であると思っております。

さて、今私どもが直面して抱えている諸問題の中で、従業員の高齢化と後継者不足は深刻であり、若年技術者の育成が急務であり、問題解決に向け真剣に取り組み対処して参りたいと思えます。

本年は、私ども協会も創立四十五周年という歴史の年を迎えます。この長い歴史の中、造園業も造園建設業へと、そして自然や緑を守り造り出すという環境を保全する業界へと進展し、協会発足の目的でありました「潤いのある生活環境を整備促進するため、自然環境の保全及び都市緑化の推進を図り、もって緑豊かな住みよい県土づくりに貢献すること」を目的とする。「この発足の目的に沿った事業の展開がより一層求められる時代になって参りました。

これからは、会員の結束を強め地域社会への貢献と技術の深耕向上を推進して参らねばならないと思っております。

会員の皆様方には、本年も倍旧のご協力をお願い申し上げます。会員皆様方のご多幸とご繁栄を祈り上げ新年のご挨拶といたします。



静岡県知事

川勝 平太

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから、まことに潤いを与える質の高いみどりづくりに御尽力いただき、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

日本を象徴する富士山を擁し、日本の真ん中にあつて、歴史的に東西の文明が交流し調和してきた地である本県は、ヒトモノ・大地の潜在力である「場の力」を有しており、富国・有徳を形にし、日本の理想郷足り得る条件、可能性を十分に備えています。

こうしたことから、本県では、「任んでよし 訪れてよし」の理想郷を目指す姿のひとつと定め、「富国・有徳の理想郷。ふじのくに」のグランドテーマインとなる新しい総合計画を策定いたしました。

県民の皆様が心豊かで質の高い生活を送り、本県を訪れる皆様に潤いとやすらぎを感じていただくためには、快適な暮らし空間の実現や低炭素・循環型社会の構築などを進めるとともに、自然と調和する美しい景観を創造・保全することが必要です。

このため、県といたしましては、市町や緑化関係団体と連携して、公共的な空間の緑化の拡大や県民の皆様への参加による緑の維持管理の推進、緑化を実践する人づくりなどに積極的に取り組んでまいります。

こういった施策を推進するためには、専門技術を備えた貴協会の皆様のお力添えが特に重要でありますので、今後とも御協力いただきますようお願い申し上げます。

貴協会のますますの御発展を心からお祈りし、新年のごあいさついたします。



静岡県造園施工管理技士会会長

望月 救彦

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には心新たに本年も事故のない安全で安心して仕事ができる様に心よりお願い致します。

技士会では昨年も二級級の造園施工管理技術試験の受験対策講習会を行なうてまいりました。十二名の方の全員の合格を願っております。各社に二名でも多くの技術者が必要ではないかと思っておりますので、受験対策講習会にぜひご参加ください。

静岡県内では富士山をテーマにした様々な行事が行なわれており、東部地区では特に活発に行なわれております。富士山頂の西側には大規模な大沢崩れがあり大沢石は土留めの砂防ダムを越えて富士宮地区には数万もの石が流出されます。

私達造園工事に携る業者の手によって大沢石は蓄積されておりますが、大沢石



西井川水たたき石

が脚光を浴びたのは随分昔のように思われます。公共の石積み土留め景石等に使用され全国にも発送されましたが現在ではほとんど使われる事が少なくなりました。

過去に使われた大沢石が目につく所といえば富士土木事務所発注の潤井川(延長100m位)での水たたき石です。富士高等学校より北約300mの橋の上流にあり落差3mで水は川幅いっぱい流れ落ちています。近くに寄ると水しぶきと音で雄大です。

田子浦港事務所の工事で東側に土留めに組まれ高さ2m延長200m以上です。



田子浦港土留め

また富士鉄工団地の工場の門の両サイドに組まれた石積みは静寂を想像されます。(約200m位)

浜名湖花博の臥龍の松周辺の大沢石は躍動感あふれていました。

本年は新しい仕事に挑戦する時の様に思われます。富士山のPRを兼ねて誇りと信念を持ち新しい出発点にしたいと思っております。

委員会だより (技術委員会)

壁面緑化モデル施設の植生状況



夏号、秋号では、施設の概要や温度等の環境影響調査の中間調査結果の概要を報告しました。今回は、植生の状況を報告します。

被覆の状況に差

壁面の緑化による被覆状況は、九月十五日に各プランター単位で正面から写真撮影し、図面での面積測定に使われる「ドット・テンプレート」を使って、写真上で被覆率を測定しました。その結果は、別表「植生状況一覧」の「被覆率欄」の記載の



No.2



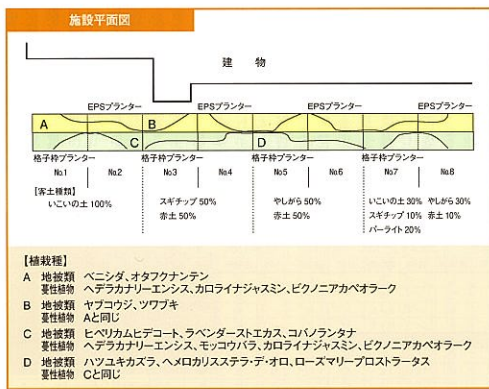
No.7

とおりとなりました。この被覆率は、壁面表と裏の両面の緑化植物の被覆率となります。最も高かったのは、No.7の87%で半年での生育としては十分満足といく被覆となりました。また、低かったのはNo.2の55%ですが、被覆としてはまずまずの結果です。結果の違いは、客土や緑化面の裏の建物構造（施設平面図）のとおりNo.1と2は壁面部分がなく風が吹き抜け易い状況にあります。などが影響

しているものと考えられます。また、No.4と同じ客土のNo.3が低いのは、No.3の建物壁面に大きく柱が出ており、この構造の変異による風の流れ等の影響によるものと考えられます。建物壁面の構造変異がある場合は風の流れなどの影響を考慮する必要がありと言えます。

植栽種にも生育の違い

植栽した植物十四種のそれぞれの生育については、施設管理を委嘱している「株」西野造園の小澤芳彦氏に調査をお願いしました。その結果は、別表「植生状況一覧」とおりました。



No.1



No.8

つる性植物四種は、おおむね被覆率と同じ傾向になりました。半年というともあつて、衰退の傾向はどの種も見受けられません。

地被類では、日陰となる建物側四種の中で特に良かったのが、No.1のオタフクナンテンで、生育が悪かったのは、No.8のヤブコウジとツワブキでした。灌水装置がNo.1からはじまり末端がNo.8となることで灌水量に差がでているようでの影響も考えられます。



No.8



No.5

日当たりの悪い側の地被類6種は、No.3を除くいずれかのプランターで優占して良好な成長を遂げており、種によつて異なつた結果となりました。それぞれ種が持つている水分、乾燥や陽陰への適応力、客土の土性などの差によるものと考えられ、長期間詳細に調査していけば貴重なデータになるものと期待しています。

植生の状況から、格子枠の芝が日当たりの悪いところでは生育が悪いのを除けば、プランターの種類による差は基本的に

無く、また、客土については、性質植物にとつては混合客土が適切と言えますが、地被類植物には、必ずしもすべての種に適切と

は言い難い結果となりました。今後、経過調査を続け、現場で役立つ資料の収集、分析評価を行つていきたいと考えています。

しかしこの静岡地区は都心部に比べてまだまだ土地には余裕があり、あまり近くにはモデルとなるものはありません。そのなかで櫻井副会長の指導の下、モデルとなる緑化地区の視察研修等に、技術委員会が参加致しまして御禮を重ねてきました。その甲斐あって基本骨子も固まり、二年目にはある程度基本設計が出来ました。そして実現段階になつての工事実施箇所の選定、なかなか理解してもらえない施設が、最初は西部地区で話があり、実現一歩手前まででしたが、諸々の事情で見合わせる事になり、最終的に皆様方の尽力を得て、SBSさんの会議施設前に施工することができました。今後は経過観察を続けながら技術委員会として皆様の応援にたてるように努力していきたいと思つています。今後とも宜しく、お願い致します。

（南）山本造園

山本 哲也



技術委員長で挨拶

明けましておめでとうございます。

技術委員会、委員長の山本です。技術委員会に籍をおいて十数年が経過いたしました。今年度から委員長の大役をお任せつかり、皆様のご協力を得て今日に至っております。

技術委員会は三年ほど前、委員長の時、技術委員全員を対象に今後の造園技術の向上の為に何を知らたいか、どのような技術を得たいかのアンケート調査を実施致しまして、その集計の結果、多数の意見が屋上緑化、壁面緑化でありました。

プランター番号	No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6		No.7		No.8										
	格子枠		EPS		格子枠		EPS		格子枠		EPS		格子枠		EPS										
客土種類	いこいの土 100%				スギチップ 50%				赤土 50%				やしがら 50%				赤土 50%				混合 ※				
位置	外側		建物側		外側		建物側		外側		建物側		外側		建物側		外側		建物側		外側		建物側		
地被類	パニダ	B	C	B	C	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
	オタフクナンテン	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
	ヤブコウジ	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
	ツツブキ	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
つるの性植物	被覆率	65%		55%		58%		70%		70%		79%		87%		73%									
	ヘデラ	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	カラリナ(ジャスマン)	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	ピクノニア	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	モッコウバラ	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	ヒバキカムトデコト	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	ラベンダー(ストカス)	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	コバノランタナ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハツユキカズラ	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ヘロカリスセラ	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ローズマリー	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
雑草	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	

※No.7,8の客土の混合は、いこいの土30%、やしらが30%、スギチップ10%、赤土10%、パーライト20%である。

○生育状況の評価は以下の通り

- A 優良…繁殖・伸長著しい B 良好…順調に生育するが標準的な成長 C やや不良…生育がやや悪い
D 不良…他の植物に圧倒され、繁殖・伸長が著しく悪い E 消滅…消滅した

○被覆率は9月15日の状況、生育評価は10月調査

委員会だより (総務企画委員会)

公益社団法人に向けて

総務企画委員会は、現在、公益社団法人に向けて定款変更を中心に審議しており、今回その概要を報告します。

まず、六月の第一回委員会では、「目的」や「事業」、公益法人化のメリット、顧問の設置などについて審議一部修正して県の事前相談原案とすることを了承しました。



十一月二日の第二回委員会では、事前相談結果に基づく定款案を審議しました。

○会長に加え副会長三名を代表理事とする。
この日は、ホームページの拡充、旅費や慶弔規程などについても審議し、継続審議していくこととしました。

当委員会は、協会の基本的な重要な事項を検討、提案します。会員の皆様のご意見、お考えを常に念頭に置いて審議を深めてまいります。

総務企画委員長ご挨拶



藤富士見 剛

渡邊 豊

総務企画委員会も他の委員会同様平成二十二年四月から新たに委員が選出されました。現在の総務企画委員会は、主に役員会への上程する各委員会からの報告や事務上の事項等を検討しています。

特に公益社団移行が協会の大きな事業と成りますので、毎回、その公益社団移行事務手続きの状況等を慎重に検討しております。総務企画委員会の進行については、役員会がスムーズに進むよう又検討事項にメリハリをつけ、短時間で会議が済むよう心掛けていきたいと思っております。

委員会だより (啓発労働委員会)

啓発労働委員会では、「緑の宝」の編集発行や普及啓発の展開、労働災害防止などに取り組んでおりますが、今回は、労働災害の防止の取組をご紹介します。

労働災害の防止

東部支部では、九月に二箇所を安全パトロールしました。いずれも植栽工の現場で、保安帽、標示、作業環境などを関係書類や作業現場を通じて丁寧に点検しましたが、適切に工事が行われておりました。



東部支部では、本年度もう一回実施を予定し、また、中部支部では、十一月に二箇所を実施、西部支部では本年の実施を予定しております。

労働災害は気の緩み、面倒だからという気持ちから起きることが多くあります。

パトロールや点検は安全に対する意識を喚起する意味でも重要であり、今後も労働災害防止のために努めてまいります。皆さんのご理解、ご協力をお願いします。



パトロールや点検は安全に対する意識を喚起する意味でも重要であり、今後も労働災害防止のために努めてまいります。皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

啓発労働委員長でご挨拶



株田松園

波井 清視

啓発労働委員会委員長の波井です。

啓発労働委員会は「緑と花の講演会」の開催の手伝い。安全パトロールの実施(委員長は建築防の安全指導者委嘱)と

会報である「緑の宝」の編集発行、ホームページ運営等に関係している委員会です。公益法人を目指している当協会として重要な委員会であると思います。

私は、この委員会への配属は三期連続となり委員長も二期連続となりやうとわがかけがえのひとです。

「緑と花の講演会」は多くの県民、行政担当者、会

員の為になる面白い内容の演題と講師を提供したいと考えています。いい講師の方がいらつしやいましたら推薦をお願いします。

労働災害防止のための安全パトロールの実施については、各支部年間五箇所程度を目標に実施していただいています。が、安全意識の向上の為に、より多くの実施をお願いします。

「緑の宝」発行については、これからも皆さんに読んで頂け、ためになる各社各支部地域のいろいろな情報発信をしていきたいと思っています。記事収集には今後ともご協力をお願いします。

お願いばかりになってしまいました。が、これからも啓発労働委員会をよろしくお願いします。

「緑の宝」発行については、これからも皆さんに読んで頂け、ためになる各社各支部地域のいろいろな情報発信をしていきたいと思っています。記事収集には今後ともご協力をお願いします。

支部だより (東部支部)

都市緑化の普及啓発

緑の相談所

各地に設置



供や相談対応を行いました。また、パーク堆肥や花の種を訪れた方に提供も行い、好評を得ることが出来ました。

富士宮市では、十月十六日(土)、十七日(日)、市役所前庭において開催された「富士宮緑花祭」

東部支部では、生活空間や都市の緑化の拡大、充実の一助となります。よう例年各都市で活動を繰り広げています。三島市では、四月三日(土)、四日(日)、十月十六日(土)、十七日(日)の春と秋のそれぞれ二日間、長伏公園で開かれた「三島市みどりまつり」において、三島市造園建設業協会と協力し「緑の相談所」を設けて市民の皆さんに情報提

供や相談対応を行いました。また、パーク堆肥や花の種を訪れた方に提供も行い、好評を得ることが出来ました。



建設業協会と協力し、みどりの情報や花の種を提供しました。

市民の皆さんが、緑に高い関心を寄せていること知るとともに、それぞれの家庭、コミュニティにおける一層充実した緑化活動のお手伝いできたと思います。

話が変わりますが、九月に開催した知識・技能

話が変わりますが、九月に開催した知識・技能

ストップ 耕作放棄地

補助金活用で

荒れた農地から → 市民が豊か農地へ

私たち協会メンバーがお手伝いします!

荒れた農地から → 整備された農地へ

全額補助金で対応できる場合もありますので、お近くの農林事務所・市町農家担当へ、まずは御相談を!

荒れた農地の宅を切り倒して緑を回復し、家畜用として活用します。私たちの協力を活用して、より安全で安心な農地を実現します。自分たちの未来が明るい農地は、ぜひ実現しましょう! 大切な農地を守り、新農地を創りましょう!

裏面を御覧下さい!!

(社)静岡県造園緑化協会東部支部

支部だより (中部支部)

昨年五月、静岡大学農学部から教育の一環として実施する「インターシップ」の受け入れについて協力依頼が協会にありました。実習希望地は、大学のある静岡市周辺ということから、中部支部と相談し受け入れることとなりました。受け入れ先は、中部支部の調整の結果、株ひかり造園にお願いますこととなりました。
今回、実習生からレポートが寄せられました。

インターシップレポート



静岡大学農学部

環境森林科学科

三年 野牧 匠

実習先 (株)ひかり造園

期間 八月二十三日～二十七日

一日目は草刈り、竹の伐採

掛川の現場に行き、竹の伐

採、トルネードという竹を粉砕

する機械を入れる道を作る。こ

の日は、作業に取り掛かるのは

最初で、まず、ほかの会社の職

人さんと打合せと下見をした。

塩と酒で安全祈願をして作業

が始まった。

青の高い草や笹が生えていて、

て、これが崩れそうで、歩くのが危険になってしまったという。

三日目は庭園の掃除と公園の整備。

静岡市にある『太田道灌築造 巖崎流名園』に行つて除草作業を行う。今回はホルモン系の除草剤を使用した。これは葉

などから浸透し、根まで枯らすもので、地面に落ちると分解されるものだった。散布にはサイズ

があり、冬より夏の方が効く。また、今回の葉はスギナ、イタドリ

には効果が無いらしい。この名園には、池があるが、下

はコンクリートではなく、粘土で固められている。飛び石は、昔

は、加工、顔を作っていたが、今は、加工、顔を作っていない。他の

石は、京都のくらま石を使用しており、赤みがあつた。

一年を通して作業内容が決まっております。この日は午前中、除草剤をおかけた日では終わり、午

後は小学校前と公園の草刈りと片付けをした。

四日目は第二東名の現場打合せ。

三ヶ日方面の第一東名の職人さんとの打合せがあつた。第二

東名には、トンネル作業、道路作業、緑化作業と各作業の方が大

勢いで規律がしっかりしていた。



この日は、話をしているのを脇で聞かせてもらったが、管理職は安全のことに関してしっかりと

いて、そういう一言が多かつた。

五日目は森の力再生事業の現場見学。

午前中に連れて行つてもらつたのは、三年前に作業終了した牧

之原の作業跡地で、四十%の間伐を行った結果、下草が生えてい

て、いい結果が出ていた。また、作業地のすぐ近くに小学校があり、

小川が流れ、水も澄んで綺麗だが、生物が何故か少ない。

午後は、井川の作業跡地に

行ったが、これも同じく三年前に作業終了しているが、下草は

ほとんど発生してはからず、光も入つて、いたが原因は分からない。

五日間(株)ひかり造園さんのところでお世話になりました。

大学も三年目、就職のことを真剣に考えないといけない時期

になりました。

自分は農業高校を卒業、高校時代に環境科で緑化や造園のことを学び、興味があつたので、

インターシップ先を造園関係でお願いしました。

実は、高校時代にも職場体験で経験したことがあるのですが、その時はただこなすだけで、きつい仕事としか思いませんでした。

しかし、大学生活の中で、一人暮らしのインテリアや、物の色合い、美しさを感じ取れるようになってきて、それらで美しさを木や植物で表現する造園の仕事をもう一度やってみようと思ひました。

仕事内容は、前半は、竹やぶの整備や草刈り、後半では、今までの作業跡地を見させてもらいま

した。実際に造園業と言っても、庭の制作や管理だけではなく、

緑化や土木と言った幅広い業務内容で、会社ごとに作業内容は

異なるものの、今は庭園を所持する人も少なく、仕事の内容は

変わりゆくように感じました。

ひかり造園さんのような仕事

を見るのができたのは、自分にとつて大きく、とても魅力的だと思ひました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

ありがとうございました。

支部だより (西部支部)

コミュニティ緑化 自治会に緑化技術支援

十二月十三日土曜日午前九時半、早朝には雨が止み曇り空の中、掛川市本郷東区自治会の皆さん十五名が天竜浜名湖鉄道線からすぐ近くの本郷台公園に集まりました。

この日は、「コミュニティ緑化事業を実施するため、会員七名も駆け付けました。



本郷台公園は、住宅地域の小さな公園で、木々はすでに秋の気配となり、静かで明るい雰囲気の中です。自治会の皆さんは、最初から公園に清掃し、日頃からこの公園に親しみ、愛着を持って関わっている様子で、日中ともなれば、人々が集まっ

て賑やかになり、まさにコミュニティの核ともなっていると感じました。今回の事業は、市を通じて自治会の環境緑化に対する指導支援要請が寄せられ、これに対応する形で行ったものです。

最初に、簡単な挨拶と説明をして、記念の花苗を皆さんで植え付けました。その後、皆さんからの樹木や花の管理を中心とした相談に丁寧に対応した後、皆さんと記念撮影をして、この日の指導支援活動を終了しました。本郷東区自治会の皆さんが、これからも緑を守り、育て、より緑豊かな潤いある本郷東区となることを期待します。

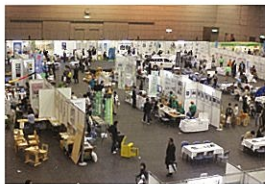


みどりのおたより

平成二十二年十月三十日、三十一日の二日間、静岡市駿河区のツインメッセ静岡において、「第8回しずおか環境・森林フェア」が開催されました。開会式では、県副知事のあいさつ、県議会議長の祝辞をいただいたの幕開けとなり、来場者は一万七千人を超える盛況なものとなりました。

このイベントは「さあ、取り組もう！環境のこと、森のこと。」をテーマに、地球温暖化防止対策や循環型社会の構築を目的に開催され、今話題の太陽光発電やLED照明などの最新の環境技術や、日々の生活から切り離せない廃棄物処理やリサイクル、また、自然環境を含めた森林・農業など幅広い分野に渡る八十ブースの展示に加え、生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)の名古屋市での開催にあわせ、富士常葉大学の協力により、棚田を中心とした里山とシカや高山植物の生息する奥山の展示も行われました。

また、緑化資材の展示では、ペランタ、歩道のコンクリート



第8回しずおか環境・森林フェア



テーマ展示 ふじのくに自然共生への道

第8回しずおか環境・森林フェアの開催

静岡県くらし・環境部環境局環境政策課

やアスファルト上を緑化する資材や、天然重曹を用いて除草する環境に配慮した緑地管理資材などの紹介があり、都市空間での緑化の可能性につながる緑化技術について、多くの来場者が熱心に説明を聞く姿が見られました。

隣接する会場で「ふじのくに交通安全県民フェア」と同時開催したことで、各種の環境対策について、幅広い来場者の皆さんに情報を発信することができたと考えています。

今回の開催に当たり皆様にも多大な御協力をいただき、心から感謝申し上げます。
 ○問合せ先 静岡県環境政策課
 ○電話 054-1221-3781



生物多様性への取組について

昨年十月、名古屋市内で「生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）」が開催されました。会議には、179の国や地域の代表一万三千人以上が参加し、かつてないスピードで扱われていた生物多様性への対応や、遺伝資源の利用に関する国際的な枠組みづくりについて話し合いが行われました。

県では、この「COP10」の間中、国際会議場隣に設けられた特設会場にブースを出展し、静岡県豊かな自然の象徴である富士山をテーマにしたパネル展示を行いました。



COP10静岡県ブースの様子

富士山に対する来場者の注目度は非常に高く、ブースには国

内外から、延べ四千人を超える来場があり、静岡県の魅力が大いにPRすることができました。

また、十月十九日に開催された国際シンポジウム「生物多様性里山知事サミット」には、生物多様性副手がパネリストとして出席し、本県の環境保全の取組について講演するなど、開催期間中は、多くの方々に静岡県の生物多様性への取組について知っていただくことができました。

さて、本県は富士山をはじめ、希少な高山植物が自生する南アルプス、複雑な海岸線を有する伊豆半島など、変化に富んだ美しい自然に恵まれた国内有数の生物多様性に富んだ県ですが、近年、乱獲や開発など人間活動による影響により、500種を超える野生動物植物が絶滅の危機に瀕しています。

県では、こうした絶滅のおそれのある希少な野生動物植物の保護を図るため、昨年八月に「静岡県希少野生動物植物保護条例」を制定しました。

これにより、特に絶滅が危惧さ

れる種の捕獲や採取を規制し、必要に応じてその生息地や生育地を保護区として、繁殖の支障となる行為を制限するほか、積極的に保護回復と増殖を図ることができるようになりました。

現在、南アルプス地域を中心として生息状況調査を実施しておりですが、今後は、この結果を基に指定の対象となる種を選定していく予定です。

また、国の動向を見ますと、昨年三月には、生物多様性基本法に基づく初めての「国家戦略」が策定され、また、昨年の四月には自然公園法や自然環境保全法が改正され、法の目的に、「生物多様性の確保に寄与すること」が追加されるなど、生物多様性の保全に対する社会的要請の高まりは益々大きくなっていきます。

COP10は、2010年度以降の新たな生態系保全の国際目標を採択し閉幕しましたが、これを踏まえ、今後、新たな国家戦略が策定される予定です。

本県においても、国の動向を見ながら、静岡県の豊かな自然環境を次の世代に残していくため、「生物多様性地域戦略」の策定に取り組んでまいりたいと考えております。

県営吉田公園のチューリップに関する取り組み

県営吉田公園は、「自然に親しみながら、レクリエーションや憩いの場として、高齢者、身障者子ども達が安心して利用できる公園を目指す」ことを目的として設置されました。大井川河口の右岸にあり、供用開始は平成十三年八月で、供用面積は14ヘクタール、主な施設としては研修施設や体験学習工房を備えた「ヒーリングコア」、様々なスポーツや遊びができる「芝生広場」、大井川周辺の自然を再現した「ピオトープ池」、車椅子の方でも草花を植えることができる高床式花壇（レイズドベッド）を備えた「やすらぎ



チューリップ植栽の様子

の庭などがあります。

この公園で、去る十一月二十八日、チューリップ植栽イベントが開催されました。当公園の指定管理者である特定非営利活動法人しずかやんが公募した約450名の方々（約三時間かけて芝生広場の花壇に五十品種、五万球の球根を植栽しました。このイベントの後には、さらに五万球の球根がボランティアや地元高校生、公園職員の手によつて園内各所に植栽され、合計十万本のチューリップが今年の春に行われるチューリップまつりの際に、赤や黄、白など様々な色で咲き、来園者の目を



咲き誇るチューリップ



県産花きの品評会イメージ

「花・緑」をテーマに、商店街利用者や春を感じながら、花と緑にあふれた街中の散策をゆつたりと楽しんでいただけるようなイベントを目指しています。

期間中は、商店街のメインストリートに花と緑でいっぱいにするほか、市街地における花緑の実践的な装飾方法をPRする

壁面装飾などの花緑装飾や参加体験型イベントなどを街のあちこちで実施する予定です。

葵タワーでは、生活に活かす花緑の利用提案として、おける節目を彩る花のアレンジメントと桃の節句にちなみ、駿河舞踊のしほりとともに花緑装飾を展示します。商店街の歩行者天国でも、服飾文化として、花の利用を提案するため、ブルーの天を中心としたファッションショーを開催する予定です。どちらも花に興味がない方にもお楽しみいただけると思います。

また、生産・装飾技術の紹介と人材育成を目的として、県産花きの品評会(静岡市民ギャラリー)やフラワーデザインなどの公開コンテスト(葵スクエアイベントスペース)を開催する予定です。県内の花き生産者が丹精込めてつくり上げた品質の高い花きやプロの装飾に優れた花きや装飾技術を御覧いただけます。

このほか、花緑を使った体験教室や花緑の育て方などを専門家に相談できる花と緑の相談コーナー(吉葉シンボルロード)一般の方々に審査員になっていただく人気投票で優秀作品を選出する店舗装飾コンテスト(商店街など)、商店街を訪れる方々



アンブルを吹き込む

松くい虫被害の予防対策として、薬剤散布と予防剤樹幹注入が行われています。このうち、予防剤樹幹注入については、

松くい虫被害の予防対策として、薬剤散布と予防剤樹幹注入が行われています。このうち、予防剤樹幹注入については、

松くい虫被害の予防対策として、薬剤散布と予防剤樹幹注入が行われています。このうち、予防剤樹幹注入については、

松くい虫被害の予防対策として、薬剤散布と予防剤樹幹注入が行われています。このうち、予防剤樹幹注入については、

平成二十三年三月四日(金)から六日(日)までの三日間、静岡市葵区の呉服町通り、七間町通りとその周辺を主な会場として、花と緑のイベント「花・緑タウンフェア in 静岡2011」を開催します。

静岡県経済産業部 農林業局みかん園芸課 静岡市内の商店街で「花・緑タウンフェア in 静岡2011」を開催します。

楽しんでくれることとなりまして、

「チューリップまつり」は、平成十六年度にオランダから県へチューリップの球根が二万六千球あまり寄附され、それを住民参加で植栽し、平成十七年度の春に、咲き誇るチューリップを一般公開したのがはじまりで、近年は、アマチュアバンドの演奏

や、大道芸などのステージイベントのほか、地元物産品の販売なども行われ、期間中は10万人を超える来園者で賑わいます。

これを機会に読者の皆さんも「チューリップまつり」に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。きつと楽しいひと時が過ごせることと思います。

「花・緑タウンフェア in 静岡2011」は「春がほほえむ街」しずおか「暮しを彩る花・緑」をテーマに、商店街利用者や春を感じながら、花と緑にあふれた街中の散策をゆつたりと楽しんでいただけるようなイベントを目指しています。

期間中は、商店街のメインストリートに花と緑でいっぱいにするほか、市街地における花緑の実践的な装飾方法をPRする

が気軽に参加できる身近で楽しい内容を用意する予定です。

このイベントを通して、一人でも多くの県民の方々に、花緑を利用する楽しさを知って、暮らしの中で花緑を利用していただきたいと考えております。

なお、「花・緑タウンフェア in 静岡2011」の詳細については、花・緑タウンフェアのホームページ(URL: <http://hana-andori.org>)などでお伝えいたします。是非、「花・緑タウン

フェア in 静岡2011」へ足をお運びください。

フラワーデザインなどの公開コンテストイメージ



フラワーデザインなどの公開コンテストイメージ

静岡県交通基盤部 森林局森林整備課 松くい虫対策樹幹注入研修会

施工単価が高いことから事業量は少なかつたのですが、最近増加傾向にあります。その理由は、予防剤の薬効期間が長くなったことや、散布と違い薬剤による健康被害の可能性がほとんど無いからです。

しかし、事業量の増加に伴い新たな問題が発生しています。それは、松に対する薬害の発生です。

樹幹注入を実施した松に、樹皮が剥離し縦溝が出来る障害(剥離)しない場合もある。こ

東部・中部、および西部で
ある四つの遺伝子型が明らか
になりました。これらのうち、
伊豆・南西部に自生しているブ
ナは、これまで全国の他地域で
確認されていなかった新しい遺
伝子型でした。

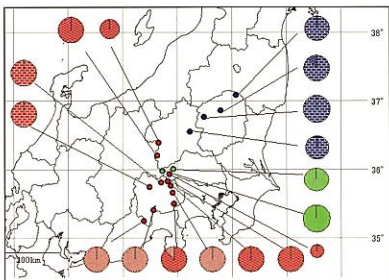
これらの樹種について、他の
機関が分析した全国の遺伝子
型も考慮して、種苗を移動させ
てもよい範囲を検討する場合、
樹種ごとに植栽する場所や利
用目的による異なる対応が必
要です。自然環境の保全を目的
とする地域に苗木を植栽する
場合は、遺伝的な組成を含め
た生態系を守ることが求めら
れます。そのため、できる限り
近隣の林分から採種し、それを
育てた苗木を植栽することや、そ
れができない場合には、同じ遺
伝子型の種苗を調達すること
が望ましいと考えられます。一
方、木材生産等が主目的の場合
は、成長や材質の良い系統の
植栽が優先されることが必要
ですが、これらが自生する個体
と交配することも考えられる
ので、優良系統であってもあま
り遠方の種苗を植栽しないほ
うが望ましいと思われま

希少な樹木の保全も県の重

要な施策の

一つで、平成二十二年には保護
条例が公布されまし
た。県で絶
滅危惧Ⅱ
類に指定
しているジ
ゾウカンバ
は、静岡県
が全国分
布の南限で
あるため、
地球温暖
化の影響
によっては
枯死して
しまうことが心配されます。そ
こで、北限の栃木県までを含め
た全国的な調査を行った結果、
大きく分けて三種類の遺伝子
型が分布しています。さらに
詳細な解析によつて、静岡市の
下十枚山、富士宮市の毛無山
に自生する個体群の遺伝子型
は、山梨県の黒岳の遺伝子型と
同じことがわかりました。浜松
市の丘陵地と愛知県にしか自
生していない絶滅危惧ⅠA類
のナガボナツハゼでは、三方原

台地周辺の個体群は遺伝的に



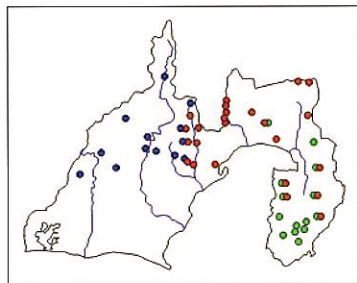
全国におけるジゾウカンバの遺伝子型と分布
同じ系統を同色で示し、より詳細な系統は模様の違いで示した

断された場合には、同じ遺伝
子型の個体を確保することも
可能です。

広葉樹の遺伝的な地域差と
それらの植栽方法については、
プロジェクト研究の報告書「広
葉樹の遺伝子解析と増殖技術
の開発」、種苗移動制限の提案
書「遺伝的地域差に配慮した
広葉樹の植栽―ブナ・ケヤキ
の事例からみた提案」、育苗
技術書「やさしい広葉樹の苗
木づくり」、希少種保全の事例
集「静岡県の絶滅危惧種・地域

近縁であることが明らかにな
りました。

絶滅危惧種や希少な樹木の
保護や保全では、さまざまな考
え方や保全のため、関係者の協議
により最善の方法を探る必要
があります。自生地の確保や生
育環境の改善を優先的に進め
ることが重要ですが、植栽や復
元が必要な場合は、遺伝的な
組成を乱さないような配慮が
必要です。これらの二樹種は組
織培養による増殖にも成功し
ており、植栽が必要であると判



静岡県におけるケヤキの遺伝子型と分布
同一色は同一型を示す



固有種の保全「プロジェクト
研究での事例紹介」として冊
子にもまとめました。興味のある方は、ぜひご覧ください。今
後も研究成果を活かして豊
森づくりを進めていきたいと
思います。

静岡県知事顕彰

十月二十六日、静岡県と（社）静岡県建設産業団体連合会は、静岡労働会館において「建設産業構造改善のつどい」を開催しました。

席上「平成二十二

年度静岡優秀施工者知事顕彰の授与式が催され、当協会からは市川造園（株）の平野正勝氏（浜松市）に授与されました。



平野正勝氏

平野氏は、静岡国際園芸博覧会での庭園施工などで発揮した優秀な技術力と積極的な技術指導、技術向上への取組が高く評価されている受賞です。

建設業労働災害防止協会本部長表彰

十月二十一日、宮城県仙台市で開催された「第四十七回全国建設産業労働防止大会」において、（株）大綱造園の中

澤正義氏（御殿場市）が安全技術の考案と実施など地域、自社における法令順守、安全対策への取組が高く評価され受賞されました。

澤正義氏（御殿場市）が本部長表彰の「功労賞」を受賞されました。中澤氏は、造園業の労働安全衛生運動推進とともに高木作業での固定ロープ着装など新た



中津正義氏

建設業労働災害防止協会静岡県支部長表彰

十一月九日、静岡労働会館において「第三十七回建設業労働災害防止大会」が開催され、（有）昭花園の寺田祐一郎氏（磐田市）が「安全表彰」を受賞されました。

寺田氏は、安全パトロールの推進や地域、職場での労働安全衛生意識の高揚など永年の労働安全衛生の取組が高く評価されている受賞です。



寺田祐一郎氏

皆様の受賞を心よりお慶び申し上げますとともに、造園業発展のため、益々のご活躍を期待申し上げます。

協会日誌

年月日	行事又は会議
平成22年	
11月2日	総務企画委員会
11月4日	「花咲くずおか」運動県民大会
11月5日	会報編集会議
11月8日	シニアワーク造園緑化講習会(函南会場)開講式
11月9日	静岡県建設業労働災害防止大会
11月9日	第3回役員会
11月11日	シニアワーク造園緑化講習会(袋井・森会場)開講式
11月15日	(社)静岡県建設産業団体連合会常任理事会
11月16日	花・緑タウンフェア実行委員会
11月25日	静岡県景観賞表彰式
12月15日	静岡県建設産業の主張2010
12月24日	第2回芝草検討委員会

お知らせ

平成23年社静岡県造園緑化協会 新年賀詞交歓会

とき 平成23年1月14日(金) 13:30~
ところ グランディエール プケートカイ
(静岡駅北口前 葵タワー4階)

第32回社静岡県造園緑化協会 通常総会

とき 平成23年4月28日(木) 13:30~
ところ クーボール会館
(静岡市葵区)

静岡県景観賞

七地区に決定

優れた景観を創出している地区や活動に贈られる「第三回静岡県景観賞」(美しいしずおか景観推進協議会主催)の表彰式が十一月二十五日、静岡市の「あざれあ」で行われました。

今年度は、例年を上回る百九十二地区、二百三件もの応募があり、この中から篠原修氏(政策研究大学院大学教授)を審査委員長とする審査委員会(当協会の片桐会長ら十五名の委員で構成)による四日間の現地調査によって七地区が選定されました。

最高賞の静岡県知事賞には、二天浜線(天竜浜名湖鉄道)のある風景が選ばれました。天竜浜名湖鉄道



浜名湖と天浜線

湖川、森林、田園、生活の場など多様な空間の中を走る「天浜線」そのものの姿や開業当時のままの施設の歴史的、文化的価値、沿線住民に愛され、支えられていることなどが高く評価されました。

優秀賞には六地区が選



茶畑と天浜線

道は、掛川から湖西市の新所原までの6.7kmを走っている旧国鉄二俣線を引き継いだ第三セクターの地方ローカル鉄道です。

この地区は、朝比奈川と里山に囲まれた水田の広がり、県指定無形民俗文化財「朝比奈大龍勢」の会場としても知られています。ここで「殿ふるさと会」は、伝統文化を守る龍勢とコスモスの里」が受賞しました。



龍勢とコスモス



コスモス畑



りながらより美しい農村づくりに取り組んでいます。今回は、地域ぐるみで農地を守り、継承する活動による特徴ある新たな風景、新たな価値の創造が高く評価されている受賞でありました。他の優秀賞は次の通り、○は受賞者。

- 大井沿いの茶畑と「川根本町」
- 風情ある伝統的な民家が並ぶ「花笠の里」(接津市花沢町内志)
- 萬城の藩周辺整備協会の会伊豆市萬城の藩周辺整備協会の会
- 遠州灘沿岸の「斜め海岸線」(御前崎市海岸防災林保護組合掛川市海岸防災林保護組合)
- 富士山と鍾乳状の水田風景(御殿場かかやき土地改良区)

平成23年1月1日発行

発行 社団法人 静岡県道園緑化協会 〒420-0031 静岡市葵区興服町2丁目2番地 興服町ビル4F
 TEL 054-253-0586 FAX 054-251-9205 ホームページ <http://www.kenchikunavi.jp/> 220304/
 編集 啓発労働委員会 題字 兼松文男氏



(社)静岡県道園緑化協会は、この「ふじのくに森の町内会」の紙を使うことにより、林地に接せられる間伐材を資源として活用し、静岡県産の豊かな森林づくりにサポートしています。